

知能検査「WISC-Ⅲ」とは… ①

11月号の学校便りの最後に、

子どもへの適切な指導及び必要な支援のために、特別支援教育ではアセスメント（行動面や知能面の特性などの見立て）が重要と考えています。専門家を招いて、WISC知能検査（知的発達の状態を、個人内差という視点から分析的に判断できる）などの実施も可能です。

お子さんの発達の様子など、気がかりなことがありましたら、いつでも、学校にご相談ください。

という記述がありますので、WISC検査について概要を紹介します。保護者から質問を受けることもありますので、まずは、先生方が、基礎知識として押さえておくといいかと思います。

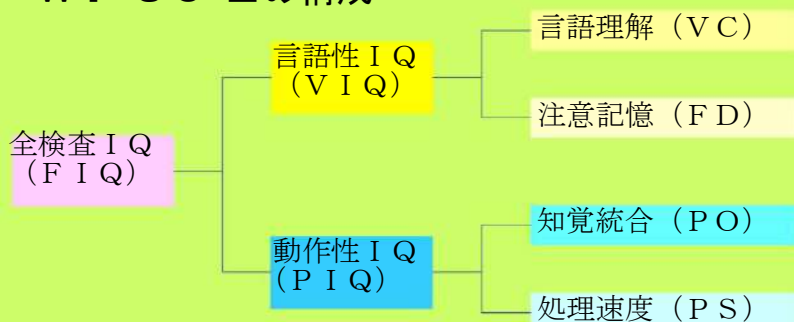
ここではⅢの説明ですが、今はⅣが出ています。基本的な部分では変わりません。

WISC-Ⅲとは …

5～16歳の児童・生徒を対象とした知能検査です。包括的な一般知能を、言語性IQ、動作性IQ、全検査IQの3種類のIQによって測定できます。また、知的発達の状態を評価点プロフィールで表示することで「個人内差」という観点から分析できます。さらに4つの群指数（言語理解、知覚統合、注意記憶、処理速度）からも分析が可能です。

一般に個人差という場合は、ある個人と別の個人の差異、もしくはある個人の集団内での相対的な位置関係、つまり個人間差をさします。個人内差は個人内の諸能力の差異をさし、個人を理解するうえで重要なポイントです。個人の知的能力と学力との差異、知的能力間の差異、学力間の差異など、様々な個人内差を早期にみつめていくことが支援にもつながっていきます。WISC-Ⅲで個人差、個人内差を見ることにより、子どもの指導の手がかりを得ることも可能になります。

WISC-Ⅲの構成



WISC-Ⅲ知能検査をすると子どものことが全て分かるわけではありません。検査を実施するにあたっては、子どもの困り感に共感できたり、支援や指導のヒントを見つけ出すというスタンスが最低限必要です。

ですから、検査を勧める場合は、子どもを理解し、支えようとする姿勢やまなざしを示すことがとても大切です。検査結果を保護者に伝えるだけでなく、結果を元にした対応の方向性を保護者や本人に示すことが重要になります。

たとえば、「ことばの面（言語性検査）」と「見てとらえる面（動作性検査）」があること、強み、弱みがわかると子どもの理解がしやすいこと、支援方法を見つけ出し、今行っている対応の修正をしたいこと等を伝えられるとよいのではないのでしょうか。

知能検査「WISC-Ⅲ」とは… ②

【検査の概要】

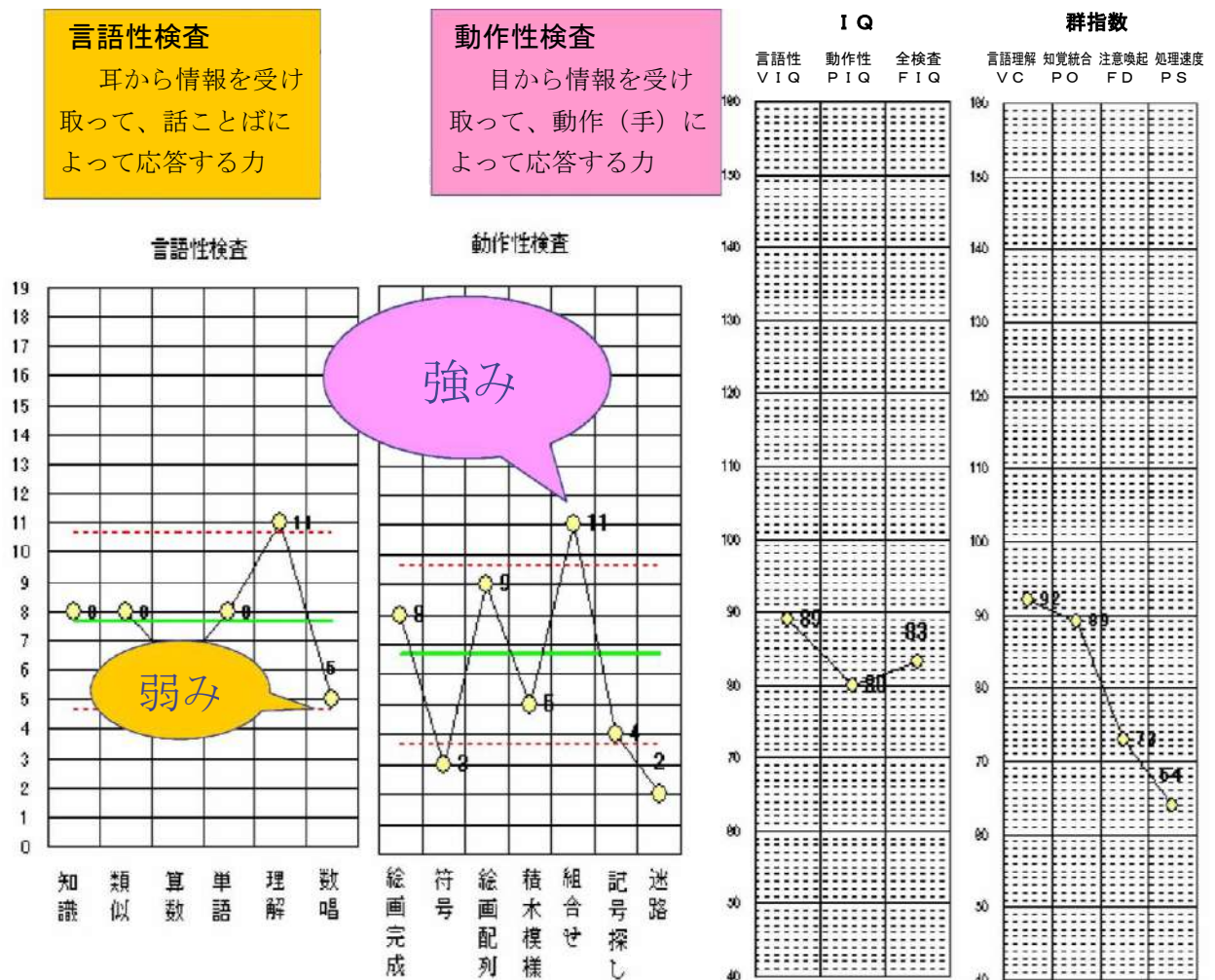
下位検査		検査の概略	測定される主な固有の能力
言語検査	知識	日常的な事柄や場所、歴史上の人物など、一般的な知識に関する質問をしてそれに言葉で答えます	・一般的事実についての知識量
	類似	共通の概念をもつ2つの言葉（刺激語）を口頭で示し、どのように類似しているか答えます	・論理的なカテゴリー的思考力
	算数	算数の問題を口頭で指示し、子どもは紙や鉛筆を使わず暗算で答えます	・計算力
	単語	単語（刺激語）を口頭で指示しその意味を答えます	・言語発達水準 ・単語に関する知識
	理解	日常的問題の解決と社会的なルールなどについての理解に関する一連の質問をして、口頭で答えます	・実際の知識を表現する力 ・過去の経験や既知の事実を正確に評価する力
	数唱	数字（数系列）を読んで聞かせ、同じ順番で（順唱）あるいは逆の順番（逆唱）でその数字を答えます	・聴覚的短期記憶
動作性検査	絵画完成	絵カードを見せ、その絵の中で欠けている重要な部分を指さしか言葉で答えます	・視覚刺激に素早く反応する力 ・視覚的長期記憶
	符号	幾何図形（符号A）または数字（符号B）と対になっている簡単な記号を書き写します	・指示に従う力・動作の機敏さ ・事務処理の速度と正確さ ・視覚的短期記憶
	絵画配列	短い物語を描いた何枚かの絵カードを決められた順序に並べて見せ、物語の意味が通るように並べ替えます	・結果を予測する力 ・時間的な順序の認識ないし時間概念
	積木模様	モデルとなる模様（実物またはカード）を提示、同じ模様を決められた数の積木を用いて作ります	・全体を部分に分解する力 ・非言語的な概念（解法の法則性など）を形成する力 ・自分が考案した空間構想に対象を位置付ける力
	組合せ	ピースを特定の配列で提示し、それを組み合わせて、具体物の形を完成します	・感覚運動のフィードバックを利用する能力 ・部分間の関係を予測する力 ・思考の柔軟性
	記号探し	左側の刺激記号が右側の記号グループの中にあるかどうか判断し、回答欄に○をつけます	・視覚的探索の速さ
	迷路	迷路問題を解きます	・視覚的パターンをたどる力 ・見通し能力

【4つの群指数と各群指数で測定される主な能力】

群指数	構成する下位検査	測定される主な能力
言語理解 (V C)	知識 類似 単語理解	・言語的な情報や、自分自身がもつ言語的な知識を状況に合わせて応用できる能力 [言語意味理解, 言語的知識, 言語的推理, 言語表現]
知覚統合 (P O)	絵画完成 絵画配列 積木模様 組合せ	・視覚的な情報を取り込み、各部分を相互に関連付け全体として意味あるものへまとめる能力 [視覚的刺激の統合, 非言語的思考, 非言語的推理, 同時処理]
注意記憶 (F D)	算数 数唱	・注意を持続させて聴覚的な情報を正確に取り込み、記憶する能力 [注意の範囲, 聴覚的な短期記憶, 聴覚的な系列化, 継時処理, 聴覚的情報の記号化]
処理速度 (P S)	符号 記号探し	・視覚的な情報を、事務的に数多く、正確に処理していく能力 [反応の速さ, 視覚的短期記憶, 視覚的情報の記号化]

知能検査「WISC-Ⅲ」とは… ③

【結果のプロフィールのイメージ】



【WISC-Ⅲ 結果解釈の手順】

手順1～IQの解釈

- ・ 知的な遅れがあるのかどうか（IQ70）
- ・ 言語性と動作性の差はどうか（得意な情報処理は？）

手順2～群指数の解釈

- ・ 各指標のバラツキはどうか（得意、不得意は？）

手順3～下位検査の解釈

- ・ 評価点平均からの落ち込みがあるか（7点以下）
- ・ 個人評価点平均からの強弱があるか

知能検査「WISC-Ⅲ」とは… ④

【学習面による支援】

1 言語理解（V C）が弱い子どもへの支援

認知特性から生じる学習の困難例

- 指示の理解が難しい
- あることばを間違った意味で使うことがある
- 文法的に不正確な言い方をする
- 音読はできても内容を理解していないことがある
- 作文を書く際、内容的に乏しい
- 文章題を解くのが難しい
- 時間の概念を表す言葉の理解が難しい



支援の例

- 言語指示はやさしいことばで簡潔に、ゆっくり、はっきり
- 一度で理解できない時には指示を繰り返す
- 集団指示を理解できない時には個別に言う
- 絵や図、文字やモデルを示して伝える
- 実際の生活や場面と結び付ける
- 文章の内容を絵で示す
- 作文を書く際、写真や資料などを手がかりとして与える
- 文章題を解く際、キーワード(例:「合わせて」「のこりは」)に注目させる○文章題の内容を絵や図で示す

2 知覚統合（P O）が弱い子どもへの支援

認知特性から生じる学習の困難例

- 聞いた内容を頭の中でまとめることが難しい(なぞなど)
- 話している内容がまとまりにくい
- 文章を要約することが難しい
- 量を比較することが難しい
- 形を弁別したり、構成したりすることが難しい
- 図形の見取り図や展開図を描くことが難しい
- 表やグラフにまとめることが難しい



支援の例

- ことばで説明する
- ひとつひとつ順を追って説明する
- 部分から全体へ説明する(例:段落をおさえてから文章全体へ)
- 頭の中で操作させるのではなく、具体物を用いる
- 図形の特徴などは、ことばで定義付ける
- モデルを提示するときには、ことばを添えて説明する
- 位置や場所などは上下左右、順序、方向、目印などを言語化して確認する(例:上から○段目、右から△番目)

3 注意記憶（F D）が弱い子どもへの支援

認知特性から生じる学習の困難例

- 聞き間違いがある
- 聞いたことをすぐに忘れる
- ちょっとした雑音でも注意がそれやすい
- 促音や拗音などの特殊音を書き誤る
- 書けないひらがなやカタカナがある
- 簡単な計算や暗算ができない
- 九九が暗唱できない



支援の例

- 注意の集中を促してから話しかける
- 言語指示や説明は簡潔に行う
- 一度で理解できない時には指示を繰り返す
- 集団指示を理解できないときには個別に言う
- 絵や図、文字やモデルを補助的に用いる
- 覚える事柄を意味付けして覚えやすくする
- 紙を使って計算させる
- メモを活用する
- 九九を覚えられない場合は、九九表を使っても良いことにする

4 処理速度（P S）が弱い子どもへの支援

認知特性から生じる学習の困難例

- 書くのが遅い
- 文字を視写することが難しい
- 書くときの姿勢や、鉛筆等の用具の使い方がぎこちない
- 音読が遅い
- 形態的に似た漢字と読み誤る
- 演算記号(+, -, ×, ÷等)の理解が難しい
- 計算が遅い



支援の例

- ことばで説明する
- 図形の特徴などは、ことばで定義付ける
- 課題に費やす時間を十分にとる
- 覚える事柄を、意味付けして、覚えやすくする
- 文章を分かり書きにして示す
- 使いやすい筆記用具(鉛筆、消しゴムなど)を用意する
- 写すべき見本をなるべく子どもの近いところに置く
- 視写する量を減らす(例:ワークシートの利用)

知能検査「WISC-Ⅲ」とは… ⑤

【行動面・社会性への支援支援】

1 言語理解（V C）が弱い子どもへの支援

認知特性から生じる学習の困難例

- 言語的な指示が理解できず集団行動からはずれてしまいやすい
- 日時や場所、やりとりなどの理解と表現が不正確でトラブルになる
- 事の流れや感情などをことばで説明できず誤解されやすい
- 会話に参加することが難しい



支援の例

- 集団指示を理解できない時には個別に言う
- 言語指示はやさしいことばで簡潔に、ゆっくり、はっきり伝える
- 一度で理解できない時には指示を繰り返す
- 絵や図、文字やモデルを示して伝える
- 約束は紙に書いて確認する
- 絵や写真などを見ながらマンツーマンで会話の練習をする
- あいさつや約束の取り決めなど、ロールプレイをおして練習をする

2 知覚統合（P O）が弱い子どもへの支援

認知特性から生じる学習の困難例

- 場面や状況、相手の表情を理解できずその場にあった行動ができない
- 位置や方向、場所などを間違えてトラブルになる
- 持ち物の整理や分類がしにくい
- 社会的なルールが理解しにくい



支援の例

- 場面や状況、その時の気持ちなどをわかりやすいことばで伝える
- ロールプレイを通して対人的な行動について練習する
- 位置や場所などは上下左右、順序、方向、目印などを言語化して確認する
(例: 上から2段目、右から3番目のロッカー)
- 持ち物はしまう場所ごとに色分けした目印を付けておく
- ルールはことばを用いて一つずつ確認する

3 注意記憶（F D）が弱い子どもへの支援

認知特性から生じる学習の困難例

- 友だちの名前が覚えられない
- 約束を覚えていられずトラブルが生じやすい
- 相手の話を最後まで集中して聞いていられない



支援の例

- 注意の集中を促してから話しかける
- 言語指示や説明は簡潔に行う
- 覚える事柄を意味付けして覚えやすくする
- 絵や図、文字やモデルを補助的に用いる○覚えておくべき事をメモする習慣を形成する
- あいさつやよく用いる言い回しなどはロールプレイをおして練習する

4 処理速度（P S）が弱い子どもへの支援

認知特性から生じる学習の困難例

- 必要な物がすぐに見つけられない
- 授業の準備が間に合わない
- 授業時間内に課題が終わらない
- 板書を写し終えることができない
- 活動のペースがゆっくりで、同学年集団の遊びについていけない



支援の例

- 授業によって必要な準備や用具のチェックリストを作る
- 使う用途によって持ち物に色分けした目印を付けておく
(例: 図工の時間に使う物に赤いシールを貼っておく)
- 課題の優先順位を考え、授業時間内に行う課題を厳選する
- 学校全体で異年齢集団での活動を積極的に取り入れる